

国見町歴史的風致維持向上計画(素案) に対する町民意見等の募集結果について

【公開方法及び公開場所】

- ・国見町役場・あつかし歴史館・観月台文化センターにて素案を公表
- ・国見町HPへの掲載

【意見募集期間】

令和6年12月20日から令和7年1月20日まで

【意見提出方法】

郵送及び持参、FAX・メールによる提出

【意見を提出できる人】

国見町内に在住・在勤・在学の方、町内に所在する法人または団体。
本案件に利害関係を有する方及び法人または団体。

【意見提出者数及び意見数】

- ・意見提出者数 9人
- ・意見数 11件

【意見に対する町の考え方】

・計画素案に対する意見について、方針事業内容を大きく修正する意見はなく、
計画素案を補強する意見でした。計画本文の文言に一部加筆を加え反映することとします。

【事務担当】国見町企画調整課地域振興係 〒969-1792 福島県国見町大字藤田字一丁田二1番7
☎024-585-2976[直通] FAX:024-585-2181[共通]

整理 番号	意見等の概要	国見町の考え方
1	<p>貝田宿など宿場町の町並み保存について、人口減少などの影響で、数十年後には今の3分の2程度の家屋が空き家になってしまうのではないかと心配される。そうすると、家の区画などもなく、勝手に売買され、荒れ果ててしまうのが心配される。保存すべき建物を、何とか残す方法はないだろうか。</p> <p>明治から昭和の生活道具や農具などは急速に失われつつあるが、残す価値のある物を見極めて保存してどうか。</p> <p>江戸時代につくられた庚申講・月待講などの「いしぶみ」は、貝田地区などに多数あるが風化が進み失われつつある。当時の人たちにとって、信仰が生活のよりどころになり、当時の社会を考える上では貴重なものと思われる。せめて関心を持って、必要であれば屋根をかけるなどして残せないだろうか。</p>	<p>全国的に進む少子高齢化や人口減少により本町でも、空き家が増加している状況です。空き家の増加や劣化を防ぐため、計画に基づく対策と適正な管理を進める条例等の整備も進めています。保存すべき建造物については、本計画の5・7・8の各章で、歴史的風致形成建造物の指定、または町指定・国登録文化財などへの指定・登録を進めるとしています。同方針に基づき、調査・指定・保存の取組を進めていきたいと考えております。</p> <p>また、かつての生活文化や生業を現在に伝える民具、庚申塔や二十三夜塔などの石碑は、ご指摘のとおり貴重な有形民俗文化財や記念物です。時代性や地域性を端的にあらわすものを中心に一部を文化財として指定しているところです。本計画の第5章において、未指定の民俗文化財・記念物の保存・活用の方針を示しておりますが、ご意見から記載を補強したいと考えます。</p>
2	<p>阿津賀志山防塁史跡整備・歴史公園整備事業について</p> <p>阿津賀志山防塁は、国道4号北側地区とあつかし千年公園(下二重堀地区)の2ヶ所が分かりやすいと思われます。青森県弘前市の弘前城公園にある桜は東北の観光名所の一つです。歴史に興味のない方には、阿津賀志山防塁もただの土手としか感じないようで、どちらかに桜の木や特産の桃にも関わる花桃を植えてはどうかと思います。暖かくなったらその場所で、弁当を食べたりゆっくりウォーキングを楽しまれると思われます。花は人の心を癒します。</p>	<p>本計画の第6章に記載の「阿津賀志山防塁史跡整備事業」・「阿津賀志山防塁歴史公園整備事業」は、山頂地区・下二重堀地区を中心に史跡だけでなく周辺も含めた整備を計画するものです。その中では、ご指摘の桜や花桃などの植栽についても重要な要素として考えます。令和7年度から、阿津賀志山防塁保存活用計画や各整備計画の検討を実施します。その検討にて、植栽についても議論を深め、その際にご意見も参考にとさせていただきたいと考えます。</p>
3	<p>2期計画の柱となるのは、情報発信・住民協働になるとのこと。そのため、国見の特産物を活かした「食」が話題づくりには核になると考えます。人が集まるためには、美味しく楽しく遊ぶことが必要で、そのためには国見石を活用した日本一のピザ釜を設置し、イベントで活用すれば話題づくりになると思います。</p> <p>国見にはモモ、リンゴ、米、サクランボ等の産品があり、これらを活用した料理教室等も良いと考えます。一過性のイベントではなく、滞在型の取り組みも必要ではないでしょうか。</p>	<p>観光の重要な要素である「見る・食べる・体験する」は、歴史まちづくりにおける情報発信においても重要と考えます。</p> <p>本計画第2章で取り上げた国見石の特性に関する情報発信の取組については、第6章の歴史を活かしたまちづくり推進事業等の一つとして実施したいと考えます。第1期計画では、「石窯ピザ」や「石釜ごはん」などを住民の協力で実施してきました。さらに新たな要素や付加価値をつけることも重要視して、展開していきたいと考えます。</p> <p>農産物を含めた「食」に関わる話題づくりや滞在型の取組については、商工観光を所管する産業振興課において、PR活動が積極的に実施され、マイクロツーリズムの取組が町内で展開されています。また、地域おこし協力隊とその卒隊者による桃・リンゴオーナー制度も新たな取組です。そのような活動に、歴史や文化の要素も積極的に取り入れられるよう、本計画とも連携を図っていきたいと考えます。</p>

整理番号	意見等の概要	国見町の考え方
4	<p>人口減少により担い手がなくなりつつあります。</p> <p>今後予算を大幅に増やし、継承・維持する為には、小・中学校において様々な行事に参加出来るようにすることや、町の歴史講座をもうけることも必要と考えます。</p> <p>また、地域おこし協力隊を広く募集し、担い手としてはと考えます。</p> <p>未指定文化財の5424件を各地域で保存し、あつかし歴史館を拡張して中心的な取り組みができるようにしてはと考えます。また、ボランティアを育成し、道の駅から情報を発信したら良いと思います。</p>	<p>少子高齢化や人口減少による担い手不足は深刻な問題ですが、今後も本計画を活かしながら国・県などの補助を活用し、課題の解決に取り組みます。</p> <p>小中学校での取組やボランティアの育成・情報発信については、本計画第3章の情報発信と住民協働・人材育成に関わる方針に基づき、また未指定文化財の保護やあつかし歴史館の役割については、第5章の文化財の保存と活用の方針に基づき、取組を進めてまいります。</p>
5	<p>今回上記の素案を拝読いたしました。第2期案はより充実した内容になっていると思います。以下、コメントは2点あります。</p> <p>①国見町が昭和29年3月31日合併したことを記念して、「国見音頭」が誕生しています。この機会に、是非、その経緯も周知を図ってほしいです。</p> <p>②現在の国見町規模での人口の推移を知りたいです。さかのぼれる範囲でおおよそで結構です。</p>	<p>国見音頭は町の合併を記念し、昭和30年に発表された古関裕而作曲・白鳥省吾作詞の曲です。第2章第1節阿津賀志山をとりまく歴史的風致のコラムに掲載しました。ご指摘の作曲背景についても加筆したいと考えます。</p> <p>当町の人口推移については、統計手法が統一されたものではありませんが旧1町4カ村の数値(現在、伊達市となる東大枝の人口を含めている)は明治期まで数値がありますので、第1章の人口において可能な範囲で掲載したいと考えます。</p>
6	<p>「第2期歴まち計画」という略称・通称名を用いる他に、今風に「歴まち計画2.0」という略称・通称名を用いることもこれまでのまちづくり施策を更にブラッシュアップするためにも意義深いと考えます。</p>	<p>「歴史まちづくり」略称「歴まち」の呼称は、「歴史的風致」を後世に継承するまちづくりの取組を、町内外に分かりやすく伝えるため国や認定各都市においても広く用いられています。国見町でも広報くみみの「歴まちさんぽ」や「歴史講演会」や「研修会」などで活用しています。今後も、呼称を大切にしながら、分かりやすさを重視してまいります。</p>

整理 番号	意見等の概要	国見町の考え方
7	<p>阿津賀志山防塁をとりまく歴史的風致の項へコラム欄を掲載する意見について</p> <p>2期計画の記載内容は「なぜ、阿津賀志山に防塁が築かれたか？」という問いに対して十分に説明しているとは言い難いのではないかと。地形学の観点、兵法の観点、地政学・地経学的な観点から、防塁がなぜ阿津賀志山に築かれたかを図版や写真を用いたコラム欄を設けることは重要であると思います。</p>	<p>第2章第1節の阿津賀志山をとりまく風致にて、第1期と比べ簡略化した部分となりますが、図版を用いながらコラムにて整理したいと考えます。</p>
8	<p>情報発信と人材育成、住民協働の充実に向けた取組について</p> <p>あつかし千年公園には、6月頃から蓮の花を見学にたくさんの方が来てくれます。第1期計画期間中に駐車場とトイレが整備され便利になりました。第2期計画期間では歴史的に意義のある場所であることを理解してもらうために下記のように案内ガイドに取り組んでほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 案内者が分かるように、ベストやネームプレートを着用する。 駐車場から蓮池へ行く前にガイダンスに案内する。時間を決めて案内する方法もある。 蓮の管理団体と連携し、蓮まつりの時期の協力者を町民（ボランティア）にお願いする。 	<p>第1期計画中に整備したあつかし千年公園には多くの方にお越しいただいています。本町を訪れる観光客が本町の魅力を十分に体感してもらうため、現地での案内ガイドは重要だと考えています。案内ガイドにつきましてはご指摘のとおり、第3章の方針、第6章の事業計画に基づき実施してまいります。</p>
9	<p>先日初めて千年公園を見て、申し訳ありませんがガッカリしました。平泉平安時代の浄土風庭園のイメージがあり大変残念でした。阿津賀志山、二重堀というすばらしい借景がありながら、真四角の田んぼに蓮が隙間なく植えてあり、花の時期に行きましたが、平日のせいか見物人もまばらでした。花が終われば何も無い。</p>	<p>あつかし千年公園については、史跡の真実性を壊さず、景観との調和を図り、史跡空間の向上に向けて有識者による委員会・パブコメを経て整備計画を策定し、設計・整備しました。</p> <p>浄土庭園は、防塁と同時期の京都や平泉に多く構築されていたものですが、阿津賀志山防塁に当時庭園が存在したと対する誤解を招くおそれがあるため検討から除外しました。防塁が構築された当時、防御力を高めた泥田が存在したと推測された範囲に、十分な園路を確保しつつ・管理面にも配慮した現在の蓮池を整備しました。今後も史跡の景観向上の取組を継続いたしますので、園地整備の内容についてはご理解願います。</p>

整理 番号	意見等の概要	国見町の考え方
10	<p>町のシンボルである阿津賀志山の登山道を復活して欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三十三観音八十八大師画像碑群を登山道に移設し、ミ二国見霊場巡りとしてPRし集客してはどうか。 ・登山道周辺に四季折々の花木をオーナー制度（寄付）を新設し植樹してはどうか。 ・山頂地区の公園化（展望台、東屋、ベンチ、トイレ、散策ルート）をしてはどうか。 ・低山登山による健康増進に寄与する手軽なコースとなるのではないか。 	<p>阿津賀志山の魅力は、低山でありながら眺望がすばらしく、身近にある山であることです。かつて存在していた登山道は現在確認も難しくなっていますが、ご指摘のとおり阿津賀志山三十三観音八十八大師画像碑群も存在する魅力の多い山です。今後、各個別の計画において整備活用を検討するところですが、与条件を整理しながら、ご意見を参考にさせていただきますと考えます。</p>
11	<p>Instagramを文化財のPRに活用してはどうか。</p> <p>各文化財の写真投稿と解説により、Instagramが持つ多数の関係人口へ文化財の魅力を発信することができる。</p>	<p>Instagramを始めとするSNSを活用して、従来の紙媒体による情報発信も併用しながら、より多くの方の手元に効果的に情報が届くように工夫したいと考えます。</p>